

# 体 育 科 学 習 指 導 案

平成26年11月27日（木）第5校時  
みなかみ町立桃野小学校6年1組 指導者：荒平 幹雄  
場所：校庭（雨天時：体育館）

## 授業の視点

内野のポジションごとの動きを明確にしたタスクゲームを取り入れて、動きの確認をさせたことは、メインゲームにおける内野の連係した動きを習得する上で有効であったか。

### 1. 単元名 ティーボール（ボール運動）

### 2. 考察

#### （1）児童の実態（男子12名、女子14名、計26名）

本学級の児童は、体を動かすことが好きな児童が多く、友達と一緒に楽しく運動することに喜びを感じ、意欲的に取り組むことができる。また、放課後には、陸上、ホッケー、水泳などの大会に向けた強化練習にも友達と一緒に練習を重ねる中で、自分の力を高めようと意欲的に取り組める児童も多い。一方で、運動することが苦手な児童もおり、体を動かすことが嫌いな児童や体育の学習や休み時間など、積極的に運動をしようとする姿があまり見られない児童もいる。

#### ＜関心・意欲・態度＞

6月に行ったアンケートの中で、ボール運動が好きな児童（23名）の多くは、ボールの扱いや友達とのやりとりに楽しさを感じている児童が多かった。ボール運動が嫌いな児童（3名）は、うまくボールが扱えなかったり、ボールでケガをしたりした経験というのが主な理由である。

#### ＜思考・判断＞

6月に行ったソフトバレーボールの授業では、チームで作戦を立て、ボールを誰に集めてスパイクを打たせるかや誰をねらってサーブを打つかなど、考えながらゲームを行う姿が多く見られた。中には、自分の考えがもてずに友達の意見に従うのみになってしまう児童もいた。また、ゲーム中はボールを持たない時の動きについて意識ができていた児童は少なかった

#### ＜技能＞

ボールを投げる動作としては、上から大きく肩を回して投げることができる児童は男子に多く、女子の5、6名は体の前面で腕だけを押して投げる形である。ボールを打つ動作は、ティーに置かれたボールに対して、バットの芯で捉えることができる児童は多い。ボールを捕る動作では、ボールを怖がってしまい、ボールをよけてしまったり、しっかりと正面には入れなかったりする児童が多く見られる。また、上からボールを押さえる形で捕ろうとする姿が、女子に多く見られる。

#### （2）教材観

本単元は、学習指導要領「体育 第5学年及び第6学年 内容 E ボール運動 ベースボール型」にあたるものである。

ボール運動は、チームごとにルールを守りながら助け合って運動する楽しさや喜びに触れ、その中で、ルールを工夫したり、チームの特徴に合った作戦を立てたりしながら、ゲームで攻防するためのボール操作やボールを持たない時の動きを身に付けていくものである。

その中で、ベースボール型に類するティーボールは、ソフトボールのように投手が投げるボールではなく、ティーに置かれた止まったボールを、バットでフェアグラウンド内に打ち返す攻撃や隊形をとった守備をするための動きを身に付け、ルールを守って安全に楽しむことができる運動である。

ゲームの中では、一人一人がボールを打つ、塁間を走塁する、打球方向に移動して捕球して投げるといった運動の機会が与えられており、どの子も役割に応じた活躍ができることもベースボール型のスポーツの特徴である。

個人的技能として、止まったボールをバットでフェアグラウンド内に打つこと、打球方向に移動し、捕球すること、捕球する相手に向かって、オーバーハンドで投げることなどのボール操作、塁間を打球の状況に応じて走塁すること、打球の方向や落下点を予測して移動すること、味方をサポートする動きなどをボールを持たない時の動きを身に付けていく必要がある。

集団的的技能として、打者に合わせた守備隊形、打球に応じた内野の連係プレーを身に付けるとともに、チームで声をかけ合いながら協力することも必要である。さらに、チーム内でのそれぞれの役割、攻撃や守備の作戦を話し合いながら、チームワークを高めていくことが大切である。

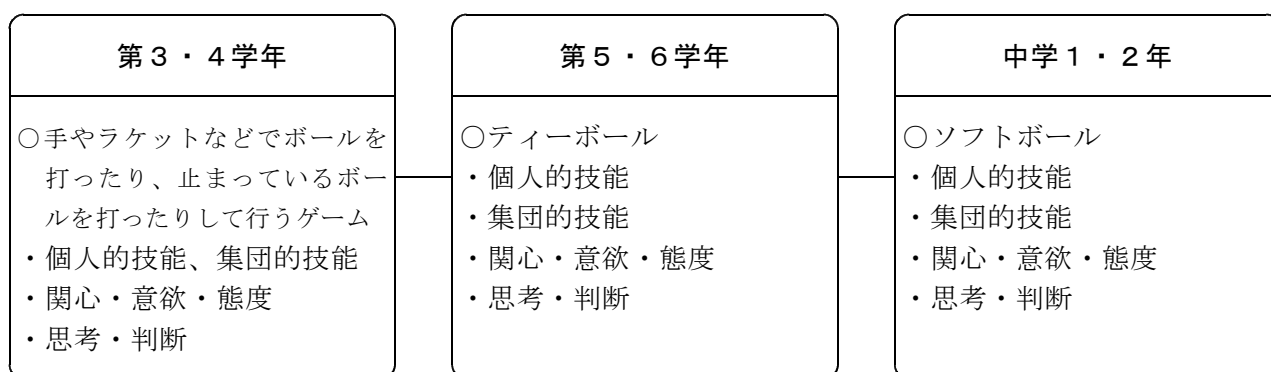
本単元を通して、①ルールを守り、仲間と協力してゲームを積極的に楽しむこと、②自分たちのチームの特徴に応じた作戦や相手のチームに応じた作戦を考え、練習やゲームに生かすこと、③バットの芯でボールをしっかりと捉えた打撃、少しでも先の塁をねらった走塁、打球に応じた捕球動作や内野の連係プレー、ねらったところへ投げる力などを確実に身に付けてほしいと考える。

### (3) 教材の系統

【ゲーム：ベースボール型】

【ボール運動：ベースボール型】

【球技：ベースボール型】



### (4) 指導・支援の方針

- 第6学年では、簡易化されたゲームの中でお互いの攻防を楽しみ、守備隊形に応じた打撃や打球に応じた内外野の連係を行えるようにする。ベースボール型のボール運動の楽しさや喜びを味わうことができるように、簡易化したゲームでボール操作に抵抗なくゲームが行えるようにすることを重視する。また、自チームの特徴を知り、それに応じた作戦を立てたり、相手の打者に応じた守備隊形や内野の連係を行ったりすることによって、攻防する楽しさが味わえるようにすることも重視する。
- 各チームは、1チーム6人または7人、計4チームとし、グループ間ではできるだけ均等になるように編成する。
- 投げる動作や捕球動作、打つ動作を身に付けるよう、ドリルゲームとタスクゲームを組み合わせで指導していく。
- タスクゲームの中で、バットの握り方やボールの正面に入ってから捕球の仕方、大きく腕を振って投げる送球の仕方など、基本的な技能が身に付けられるようにするとともに、ボールを持たない時の動きについても適宜確認しながら進められるようにする。
- 各時間のメインゲームでは、校庭の2面を使用して、4対4内野連係ゲーム、6対6内野・外野連係ゲームを行うようにする。
- チームの作戦の確認、個人やチームの課題の確認を行えるよう、メインゲームの間には、チームで話し合いをする時間を設けるようにする。
- チームでの話し合いや作戦を考えやすくするよう、学習カード、掲示物などを工夫し、活用させるようにする。
- 仲間と協力し、各自が役割を自覚して行えるよう、キャプテンや用具係、ビブス係など、一人一人の役割を決めて取り組むようにする。
- 互いに励まし合い、よい雰囲気づくりを行えるよう、お互いに「ナイスバッティング」「ナイスキャッチ」「ドンマイ」など声をかけ合いながらできているチームを賞賛していく。

- お互いルールを守って楽しくゲームが行えるよう、審判の判定には必ず従うよう徹底する。また、ゲームの始まりと終わりにはしっかりとあいさつを行うようにする。
- 道具の扱いにも十分注意し、ボールを投げる時やバットを振る際には、目を離さないように気を付け、必ず声をかけ合うようにする。

**(5) 授業中における生徒指導**

①「自己存在感」を与える教育活動の工夫

- ・単元を進めるにあたり、児童が各ポジションにおける個々の役割を果たせるようになっていたり、チームの作戦に応じた動きが協力してできるようになったりした点などを認め、励ましていくように心がける。

②「共感的な人間関係」を育む教育活動の工夫

- ・協力しながら試合が進められるよう、お互いに励まし合い、認め合っているチームを紹介し、賞賛する。

③「自己決定」の場を与える教育活動の工夫

- ・各自やチームが目標をもって学習を進められるよう、個人の反省やチームでの話合いの時間を設けたり、学習カードを活用したりする。

**3. 単元の目標**

- 運動に進んで取り組み、ルールを守って友達と助け合って練習やゲームをしたり、場や用具の安全に気を付けたりすることができる。(態度)
- チームの特徴に応じた作戦を立てたり、それに合った練習を工夫したり、ルールを工夫したりすることができる。(思考・判断)
- 簡易化されたゲームにおいて、捕球や送球、打撃や走塁などの技能を身に付け、攻防を行うことができる。(技能)

**4. 評価規準**

運動への関心・意欲・態度	運動についての思考・判断	運動の技能
①練習やゲームに進んで取り組みようとする。 ②ルールやマナーを守り、友達と助け合って練習やゲームをしようとする。 ③用具の準備や片付けで、分担された役割を果たし、場の危険を取り除いたり整備したりするとともに、用具の安全に気を配ろうとしている。	①楽しいゲームの行い方を知り、プレーヤーの数、プレー上の制限、得点の仕方などのルールを選んでいる。 ②チームの特徴に応じた攻め方や守り方を知り、自分のチームの特徴に応じた作戦を立てている。	①簡易化されたゲームにおいて、バットでフェアグラウンド内に打ったり、塁間を打球の状況に応じて走塁したりすることができる。 ②打球方向に移動し、正しく捕球や送球をしたり、打球に応じた守備の連係を用いて動いたりすることができる。

**5. 指導計画 (8時間予定 本時は4時間目)**

時	主な学習活動 【ねらい】	伸ばしたい資質・能力			関	思	技
		関・意・態	思考・判断	技能			
1	○オリエンテーション	・授業の約束、マ	・基本的なルール	・ボールを正しく	③		

	<p>を行い、ゲームの基本的なルールを知り、これからの見通しをもつ。</p> <p>○チームで動きを確認しながら試しのゲームを行う。</p> <p>・4対4内野連係ゲーム (バット打ち)</p>	<p>ナーの確認、学習の進め方の確認</p>	<p>の理解</p>	<p>握ること、相手をめがけて踏み出してオーバーハンドで投げること、バットの握り方や振り方、ボールの落下点への入り方など</p>	<p>観察</p>	
<p>【ねらい】 試しのゲームに意欲的に参加し、内野の動きや打者、走者の動きをすすんで覚えて楽しもうとしている。</p>						
2	<p>○基本的な技能を高めるためのゲームを行う。</p> <p>・スロー&amp;キャッチ</p> <p>○チームで動きを確認しながら楽しくゲームを行う。</p> <p>・4対4内野連係ゲーム (バット打ち)</p>	<p>・審判の判定に対する態度</p> <p>・用具などの準備や安全な取り扱い</p> <p>・ルールに従った活動</p>	<p>・相手打者に対する守備隊形を相談して考える</p>	<p>・ボールの打ち方、捕球や送球の仕方、内野の連係プレー</p>	<p>① 観察</p>	
<p>【ねらい】 内野手や打者、走者として、自分の役割を意識してメインゲームに取り組み、ゲームを楽しんでいる。</p>						
3	<p>○基本的な技能を高めるためのゲームを行う。</p> <p>・ローテーションゲーム</p> <p>・4対4内野連係ゲーム (手投げ)</p> <p>○チームで作戦を考えて楽しくゲームを行う。</p> <p>・4対4内野連係ゲーム (バット打ち)</p>	<p>・意欲的にボールを取りに行く姿勢</p> <p>・審判の判定に対する態度</p> <p>・用具などの準備や安全な取り扱い</p> <p>・ルールに従った活動</p>	<p>・前時までのメインゲームを参考に、相手打者に対する守備隊形を考える</p>	<p>・ボールの打ち方、走塁の仕方、捕球や送球の仕方</p> <p>・打球に応じた守備隊形、内野の連係プレーの仕方</p>	<p>② 観察</p>	<p>① 学習カード</p>
<p>【ねらい】 内野手や打者、走者として、自分の役割を果たしながら、友達との連係プレーを意識してメインゲームに取り組もうとしている。</p>						
4 本 時	<p>○基本的な技能を高めるためのゲームを行う。</p> <p>・ローテーションゲーム</p> <p>・4対4内野連係ゲーム (手投げ)</p> <p>○チームで作戦を考えて楽しくゲームを行う。</p> <p>・4対4内野連係プレー (バット打ち)</p>	<p>・意欲的にボールを取りに行く姿勢</p> <p>・審判の判定に対する態度</p> <p>・用具などの準備や安全な取り扱い</p> <p>・ルールに従った活動</p>	<p>・前時までのメインゲームを参考に、相手打者に対する守備隊形を考える</p>	<p>・ボールの打ち方、先の塁をねらった走塁の仕方、捕球や送球の仕方</p> <p>・打球に応じた守備隊形、内野の連係プレーの仕方</p>	<p>① 学習カード</p>	<p>② 観察</p>
<p>【ねらい】 打球に応じて、各ポジションごとの動きを行い、連係を用いて走者をアウトにすることができる。</p>						

5	○個人の課題を意識して、練習やゲームを行う。 ○チームの特徴にあった作戦を立て、工夫して練習やゲームを行う。(6対6内野・外野関係プレー)	・6対6内外野関係プレーの仕方 ・審判の判定に対する態度 ・用具などの準備や安全な取り扱い ・ルールに従った活動	・相手打者に対する守備隊形を考える ・少しでも先の塁をねらって走者を進める方法やそれを阻止する方法を考える	・相手の守備隊形に応じた打撃の仕方 ・少しでも先の塁をめざした走塁の仕方 ・強い打球に対する捕球の仕方 ・相手打者に応じた守備隊形	① 学習カード ・話し合い ① 観察
6	【ねらい】打球に応じて、内野・外野のポジションごとの動きを行い、連係を用いて走者をアウトにするよう、チームの作戦を考えている。				
7	○個人の課題を意識して、練習やゲームを行う。 ○チームの特徴にあった作戦を立て、工夫して練習やゲームを行う。(6対6内外野関係プレー)	・審判の判定に対する態度 ・用具などの準備や安全な取り扱い ・ルールに従った活動	・チームの作戦に応じた守備隊形を話し合う ・相手打者に対する守備隊形を考える ・今までのゲームから出た課題に応じた作戦変更をする	・相手の守備隊形に応じた打撃の仕方 ・少しでも先の塁をめざした走塁の仕方 ・強い打球に対する捕球の仕方 ・相手打者に応じた守備隊形	② 学習カード ・話し合い ② 観察
8	【ねらい】打球に応じて、内野・外野の連係を用いて素早く動き、走者を進ませないようにチームで工夫しながらゲームを行うことができる。				

## 6. 本時の学習 (4/8)

### (1) ねらい

○内野の連係プレーの動きを身に付けてゲームができる。(技能)

(2) 準備 軍手ボール (16個)、カラーバット (8本)、カラーコーン (8本)、ティー台 (8本)、得点板 (2台)、ビブス (青、緑、水、橙色)、学習カード、筆記用具

### (3) 展開

学習活動 予想される児童の反応	時間	支援・指導上の留意点及び支援・評価
1 学習準備、準備運動、ランニング、あいさつ	8分	・チームごとに安全にランニングや準備運動を行えるよう言葉をかける。
2 スロー&キャッチ (2人組のキャッチボール)、ローテーションゲーム (4人組の打撃練習) をする。 【ドリルゲーム】		・相手が捕りやすいボールを投げたり、相手が投げたボールを捕ったりする技能を身に付けられるようにするために行うことを伝える。 ・ボールの握り方や捕り方、投げ方などについて、助言しながら回るようにする。 ・ボールの打ち方だけでなく、ボールの捕り方や捕った後の中継プレーなども行いながらローテーションゲームを行うよう伝える。
3 本時の課題を確認する。		

【学習課題】 前時よりも内野の連携する動きを高めて走者の進塁を防ごう。

<p>4 4対4内野連携ゲーム (手投げ)をする。 【タスクゲーム①】 ※チーム内で行う</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・6(7)人が一度ずつ自分の役割を交代し、1イニングを行う。</li> </ul>	<p>12分</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・内野の動きを理解し、内野の連携する動きを身に付けるために、1チーム6(7)人で行い、「打者」「走者」「1塁」「2塁」「遊撃手」「3塁」「審判」の順でローテーションさせ、各ポジションでの学習ができるようにする。</li> <li>・打者には、前時のチームの課題に応じて意図した場所に手でボールを投げるようにさせる。その際、前時までのチームの課題やポジションごとの動きの確認を参考にしよう助言する。</li> <li>・走者は、1塁、2塁、3塁の順に走り、進塁できたところまでを得点とし、さらに連携する動きを高めて前時よりも少ない得点にできるよう目標をもたせる。</li> </ul>
<p>4 4対4内野連携ゲーム (バット打ち)をする。 【メインゲーム①】 ※相手チームと行う</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1グループ6(7)人で行い、攻撃は、「打者」「走者」「審判」「待機」「待機」「得点係」「審判」の順でローテーションする。</li> <li>・打者がティーの上のボールを打ったら、走者は、1塁、2塁、3塁の順に走り、進塁できたところまでを得点とする。</li> <li>・2イニングを行い、得点を競う。</li> </ul> <p>【予想される児童の姿】</p> <p>A：打球に応じて素早く反応し、ボールを捕った時の動き、受ける時の動きを的確に判断して動いている。</p> <p>B：友達と声をかけ合いながら、打球に応じてボールを捕りにいたり、受けていたりしている。</p> <p>C：ボールは捕れるが、どこに投げてよいか分からない。</p> <p>D：打球に対して、全く動けない。</p>	<p>20分</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・内野の連携プレーなど、習得した技能を高めるためにメインゲームを行うことを伝える。</li> <li>・3mライン(扇形)より遠くに飛ばなかった場合は、打ち直しができることを伝える。</li> <li>・チーム全員が打ち終わったら攻守交代をする。</li> <li>・内野はローテーションしながら、6(7)人全員が守りに入れるようにする。</li> <li>・楽しくゲームを行うためには、審判の判定を尊重する態度が必要であることを思い出させる。</li> </ul> <p>【具体的な支援】</p> <p>A：できているプレーを賞賛し、他の児童へはお手本とするよう紹介する。</p> <p>B：少しでも先の塁に走者が進まないためにはどのようにしたらよいか考えさせ、自分で判断して動けるようアドバイスする。</p> <p>C：タスクゲームでの動きを例示しながら、友達と声をかけ合いながらどこに投げたらよいか確認するよう伝える。</p> <p>D：打球に対して正面に入って捕る動きの手本を示し、走者を見たり、友達の声を聞いて投げたりするよう伝える。</p> <p>◎走者の進塁を防ぐために、どのアウトゾーンに投げればよいか考えて送球したり、どこに動けばよいか考えて動いたりしてゲームができる。(観察)【技能】</p>
<p>6 本時を振り返る。</p>	<p>5分</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の学習課題が達成できたか確認する。</li> <li>・学習カードを用いて、チームごとに本時の振り返りを行うよう促す。</li> <li>・上手にプレーできていたチームを取り上げて紹介したり、賞賛したりすることで次時への意欲を高めるようにする。</li> </ul>